## モデル組織による活動

### 1.モデル組織の活動事例

避難の呼びかけ体制づくりは、モデル組織と、「広島県」、「対象市町」、「広島県自主 防災アドバイザー」が連携し、取組を行いました。その過程で生じた課題や解決策をまとめ た「活動事例」を掲載します。

なお、モデル組織は下表のとおりであり、組織の特性を併せて記載しています。自分たち の組織と類似の組織を参考に取組を進めてください。

#### ◆表 モデル組織とその特徴◆

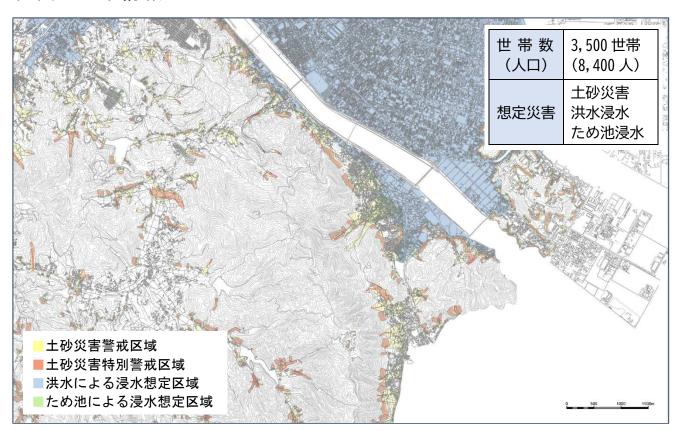
組織単位	世帯数 (人口)	市町	組織名称	避難所まで の距離	防災リーダー の有無	掲載ページ
小学校区	3,500 世帯 (8,400 人)	福山市	水吞学区自主防災協議会	近い	有	P.19
小学校区	800 世帯 (2,300 人)	東広島市	you 愛 sun こうち	遠い	有	P.21
小学校区	800 世帯 (1,700 人)	坂町	小屋浦地区自主防災組織	近い	有	P.23
連合	350 世帯 (800 人)	竹原市	忠海東町第1自治会~ 第7自治会 ※7自治会の連合体	近い	無	P.25
連合	1,000 世帯 (2,500 人)	府中市	栗生町自主防災組織 ※4 町内会の連合体	近い	有	P.27
連合	450 世帯 (1,000 人)	安芸 高田市	上根・向山地域振興会 ※13 行政区の連合体	遠い	有	P.29
町内会	200 世帯 (350 人)	呉市	神山自治会自主防災会	遠い	有	P.31
町内会	450 世帯 (1,100 人)	三原市	中之町下町内会「防災会」	近い	有	P.33
町内会	300 世帯 (700 人)	尾道市	吉浦町内自主防災会	近い	有	P.35
町内会	450 世帯 (1,200 人)	海田町	海田町西地区自主防災会	遠い	有	P.37
団地	70 世帯 (180 人)	熊野町	葵団地自主防災組織	遠い	無	P.39

#### ●活動事例の注記●

- 組織の基本情報にある「想定災害」は、土砂災害、河川氾濫による洪水浸水、ため池の 決壊による浸水を記載しています。
- ため池の決壊による浸水は、現時点で浸水想定区域が公表されているものを掲載しています。
- 世帯数・人口については概数を記載しています。

## 小学校区【福山市】水吞学区自主防災協議会

### ◆組織の基本情報



### ◆避難の呼びかけ体制(抜粋)

避難	情報の入手方法	福山市防災メール/テレビ/インターネット/防災行政無線/ラジオ等							
	順番	自主防災協議会会長・自治会連合会会長⇒防災リーダー・自治会長 ⇒班長⇒班員							
	担当者不在時の対応	自治会長、防災リーダーはお互いに不在時の呼びかけをフォロー 班長不在時の場合は、自治会長、副会長、防災リーダーが代行							
呼	タイミング	警戒レベル 3	警戒レベル 4						
呼びかけ	範囲	土砂災害警戒区域等・洪水浸水想定区域内の世帯							
け	優先度	要配慮者	-						
	方法	電話 / 戸別訪問	電話						
	内容	避難所へ逃げましょう。	一緒に逃げましょう。						
	完了確認	_							
他団	体との連携	民生委員/消防団/防火協会							

### ◆呼びかけ体制づくりに向けた取組



- ●組織の防災意識が高く、学区内の21自治会それぞれに組織が独自に定める防災リー ダーを配置している。
- ●自主防災協議会会長や自治会連合会長のリーダーシップが強く、組織の結束が強い。

### 1) 実施した取組

#### Step1 防災意識の醸成

### 講演会

実施時間:60分 参加人数:31名 役員、防災リーダ ーが参加した。

#### Step2 地域性の把握

#### 災害図上訓練

実施時間:90分 参加人数:37名 役員、防災リーダ 一、学校関係者が 参加した。

## 呼びかけ体制づくり

### ワークショップ

Step3

実施時間:90分 参加人数:60名 役員、防災リーダ 一、民生委員、消防 団が参加した。

※会議でも呼びか け体制を議論

### Step4 呼びかけ体制の実践

#### 避難訓練

実施時間:90分 参加人数:200名 役員、防災リーダ 一、班長が参加し Step5 呼びかけ体制の検証

### 訓練の振り返り

実施時間:90分 参加人数:25名 役員、防災リーダ ーが参加した。







### 2) 体制づくりで明らかとなった課題と解決策

#### 課題:避難場所の開設

複数の自治会が避難場所としている施設について、自主防災組織が鍵を所持していないため、開設にあたっては市職員の到着を待つ必要がある。

#### 解決方法:行政との調整

市に対し施設の鍵の貸与を要望し、鍵を貸与してもらえることとなった。自主防災組織が鍵を所持することで「警戒レベル3」発令時での避難場所の開設が可能になった。

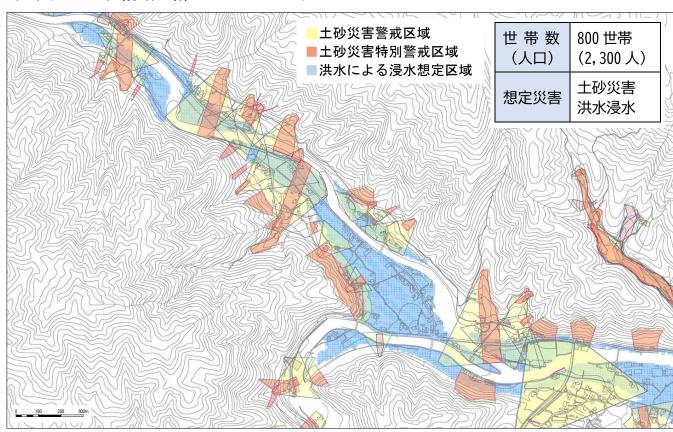
### 3) モデル組織独自の取組

#### ●連絡網の作成

災害想定区域内の居住者に効率的に呼びかけを行うために、土砂災害警戒区域等、洪水浸水想定区 域内の世帯の連絡網を作成した。さらに、要配慮者の把握を行い、優先的に呼びかけることにした。

## 小学校区【東広島市】you愛sunこうち

◆組織の基本情報 ※地図は上河内地区を掲載



◆避難の呼びかけ体制(抜粋)※上河内地区の事例

避難	情報の入手方法	東広島市防災メール/テレビ/インターネット					
	順番	災害対策本部⇒町内会長⇒班長⇒班員					
	担当者不在時の対応	代理が担当					
	タイミング	警戒レベル 3					
呼 び	範囲	全世帯					
呼びかけ	優先度	要配慮者					
	方法	電話連絡/メール(組織独自)					
	内容	発令された避難情報を伝え避難を促す。					
	完了確認	電話連絡の最終者が町内会長に報告					
他団	体との連携	_					

◆呼びかけ体制づくりに向けた取組



- ●中山間地域にある組織であり、集落が点在し、民家同士の距離が離れている。
- 【●防災講演会や災害図上訓練などの活動を毎年行っており、防災意識が高い。

### 1) 実施した取組

#### Step1 防災意識の醸成

# 講演会

実施時間:60分 参加人数:17名 役員が参加した。

#### Step2 地域性の把握

#### まちあるき 実施時間:150分 参加し数:14.2

実施時間:150分 参加人数:14名 役員が参加した。

#### Step3 呼びかけ体制づくり

## ワークショップ

実施時間:120分 参加人数:24名 役員、地域住民が 参加した。

#### Step4 呼びかけ体制の実践

情報伝達訓練 実施時間:40分 参加人数:40名 役員、地域住民が 参加した。

#### Step5 呼びかけ体制の検証

#### 訓練の振り返り

実施時間:60分 参加人数:8名 役員が参加した。

※情報伝達訓練後に実施







### 2) 体制づくりで明らかとなった課題と解決策

#### 課題:組織の規模

小学校区単位の大きな組織であり、一度に全地区での体制づくりを進めることが難しい。

#### 解決方法:モデル地区による体制づくり

まずは体制づくりが可能な上河内地区で取組を行い、 全地区合同の防災訓練時に、上河内地区から事例発表 を行うなど、他地区へ体制を波及させる。

### 3) モデル組織独自の取組

#### ●災害対策本部の設置

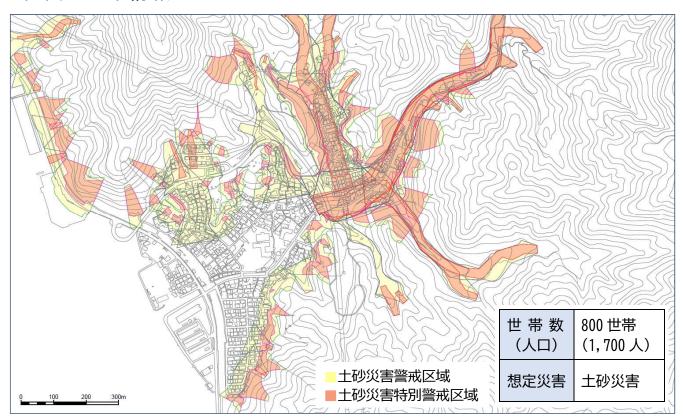
大雨警報発令時に、自主防災組織の会長および役員が参集し、災害対策本部を設置する。組織として、防災情報の収集や避難者の受入体制を整える。

●自主防災組織独自の防災メール配信

組織独自の防災メールを用い、東広島市からの避難情報などを登録者へ一斉配信している。

## 小学校区 【坂町】小屋浦地区自主防災組織

### ◆組織の基本情報



## ◆避難の呼びかけ体制(抜粋)※13町内会のうち、1町内会を事例として掲載

避難	情報の入手方法	町から会長への電話/防災行政無線(戸別受信機)							
	順番	自主防災会長⇒町内会長⇒ブロック長⇒ブロック員							
	担当者不在時の対応	副ブロック長が代行							
	タイミング	警戒レベル 3	警戒レベル 4						
呼	範囲	全世帯							
呼びかけ	優先度	要配慮者	連絡未確認の世帯						
VJ	方法	電話/戸別訪問/LINE	電話 / LINE						
	内容	放送に注意して避難の準備をしてくだ さい。一緒に車で避難しましょう。	みんな避難しています。急いで 避難してください。						
	完了確認	ブロック長か役員、または、町内会長へ報告する。							
他団	体との連携	_							

## ◆呼びかけ体制づくりに向けた取組



- ●地区の大半が土砂災害警戒区域等である。
- ●これまでの自主防災組織の活動としては、坂町が主催する「一斉防災訓練」への参加 程度であり、独自の活動はあまりできていなかった。

### 1) 実施した取組

#### Step1 防災意識の醸成

### 講演会

実施時間:60分 参加者数:18名 役員が参加した。

#### Step2 地域性の把握

### 災害図上訓練

実施時間:120分 参加者数:23名 役員、民生委員、消 防団が参加した。

### Step3 呼びかけ体制づくり

#### ワークショッフ

実施時間:120分 参加者数:28名 役員、民生委員、消 防団が参加した。

※体制発表会など も実施

#### Step4 呼びかけ体制の実践

#### 避難訓練

実施時間:60分 参加者数:400 名

|※訓練と併せて防災 フェアも実施

#### Step5 呼びかけ体制の検証

#### 訓練の振り返り

実施時間:120分 参加者数:16名 役員が参加した。











### 2) 体制づくりで明らかとなった課題と解決策

#### 課題①:災害想定区域の広さ

土砂災害警戒区域等に住む住民が多いた め、早めに呼びかけを開始する必要がある。

#### 課題②:組織の規模

世帯数や範囲など、学区内の 13 町内会ごと に特徴が異なるため、呼びかけ体制の統一 が難しい。

#### 解決方法:警戒レベル3での呼びかけ

土砂災害警戒区域等からの早期避難を促すた め、「警戒レベル3」からの呼びかけを徹底した。

#### 解決方法:町内会単位の体制づくり

13 町内会ごとに呼びかけ体制を構築することと した。ただし共通のルールとして自主防災会長・ 副会長・各町内会長とで LINE によるグループを 作成し、情報共有を図ることとした。

### 3) モデル組織独自の取組

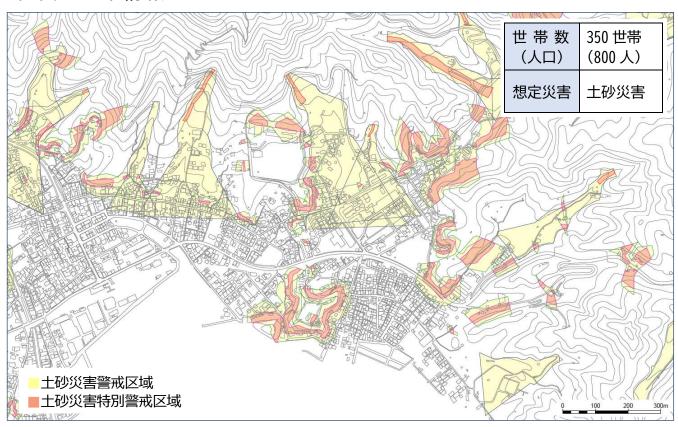
#### ●活動単位の細分化

早期に呼びかけを完了するため、町内会の「班」よりも小さい5世帯程度の単位(ブロック)を作 り、早めに呼びかけを行い、避難ができる体制を整備した。

## 連合

## 【竹原市】忠海東町第1自治会~第7自治会

### ◆組織の基本情報



### ◆避難の呼びかけ体制(抜粋)※7自治会のうち、1自治会を事例として掲載

避難情報の入手方法		竹原市防災メール/市から自治会長への一斉電話/テレビ/インターネット						
	順番	会長⇒組長⇒各戸(会長と役員は情報共有)						
	担当者不在時の対応	副担当の代行 / 代理の選任						
	タイミング	警戒レベル3	警戒レベル 4					
呼	範囲	全世帯						
呼びかけ	優先度	災害想定区域内の世帯 / 要配慮者						
<b>V</b> )	方法	電話 / 戸別訪問						
	内容	避難情報とその内容、開設した避難所、これから起こりうる災害を伝 え、避難することを促す。						
	完了確認	組長⇒会長(呼びかけの順番とは逆順	頁に報告)					
他団	体との連携	民生委員/消防団						

### ◆呼びかけ体制づくりに向けた取組



- ●近年は定期的な活動を行っていなかったものの、前年度に災害図上訓練を実施し防 災意識は高まってきている。
- ●昔ながらの集落であり、自治会の結束力は強い。

### 1)実施した取組

#### Step1 防災意識の醸成

前年度に災害図上 訓練を実施したた め取組は<u>省略し</u> た。

#### Step2 地域性の把握

前年度に災害図上 訓練を実施したた め取組は<u>省略し</u> た。

## 呼びかけ体制づくり

### ワークショップなど

Step3

実施時間:120分 参加者数:30名 各自治会の役員が 参加した。

※体制検討会など も実施

#### Step4 呼びかけ体制の実践

#### 避難訓練

実施時間:50分 参加者数:150名 各自治会の役員、 住民が参加した。

※防災講演とアルファ米試食も実施

#### Step5 呼びかけ体制の検証

### 訓練の振り返り

実施時間:50分 参加者数:12名 各自治会の役員が 参加した。

※避難訓練終了後 に実施

### 2) 体制づくりで明らかとなった課題と解決策

#### 課題①:リーダーの不在

7 自治会が連携して活動に取り組んではいるが、防災活動に関しては 7 自治会全体でリーダーシップをとれる人が不在である。

#### 課題②:避難所の開設時期

利用したい最寄りの避難所が警戒レベル 3 発令時に開設されないことが分かった。

#### 課題③:避難所の収容可能人数

避難訓練の結果、利用したい最寄りの避難所 の収容可能人数が不足していることが分かった。

#### 解決方法:自治会単位の体制づくり

7自治会をまとめるリーダーを決めて統一的な体制を組むのではなく、それぞれの自治会が個別に体制を組むこととした。

#### 解決方法:行政への働きかけ

竹原市に強く要請し、対象施設を「警戒レベル 3での開設」に変更した。

#### 解決方法:避難所の追加

収容可能人数の不足を解消するため、近隣の民間施設を避難所として利用できるよう働きかけている。

### 3)モデル組織独自の取組

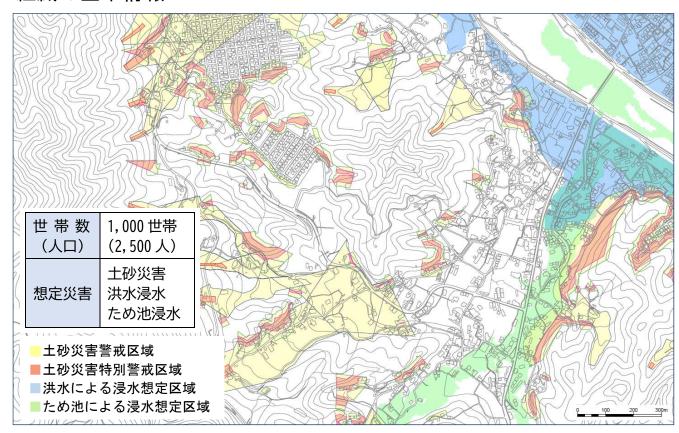
#### ●避難情報の入手方法の強化

自治会長が不在の場合でも滞りなく避難情報を入手できるよう、市からの 一斉電話連絡に副会長も登録した。



## 連合【府中市】栗生町自主防災組織

### ◆組織の基本情報



### ◆避難の呼びかけ体制(抜粋)

避難	情報の入手方法	府中市防災メール/市から町内会長への一斉電話									
	順番	町内会長⇒幹事⇒組長⇒組員									
	担当者不在時の対応	町内会長不在⇒別町内会長/幹事不在⇒町内会長/組長不在⇒幹事が代行									
	タイミング	警戒レベル3	警戒レベル4 (勧告)	警戒レベル4(指示)							
呼び	範囲	全世帯									
呼びかけ	優先度	要支援者⇒土砂災害特別警戒区域内の住民⇒土砂災害警戒区域内の住民 の順に優先的に呼びかける。									
	方法	電話/戸別訪問									
	内容	市が発令した避難情報を伝え、指定避難所への避難を呼びかける。									
	完了確認	組長⇒幹事⇒町内会長(	(呼びかけの順番とは逆順	(に報告)							
他団	体との連携	消防団/救護班									

### ◆呼びかけ体制づくりに向けた取組



- ●定期的な防災活動を実施しており、防災マップを作成し地域内に周知するなど、地域 全体として防災意識が高い。
- すでに独自に呼びかけ体制を整えている。

### 1) 実施した取組

### Step1 防災意識の醸成

### 説明会

実施時間:60分 参加者数:4名 町内会長が参加した

#### Step2 地域性の把握

過去に災害図上訓 練などを実施して いるため取組は<u>省</u> 略した。

#### Step3 呼びかけ体制づくり

すでに呼びかけ体 制を構築している ため取組は<u>省略し</u>

> ※防災講演、炊き 出しも実施

Step4

呼びかけ体制の実践

避難訓練

実施時間:100分

参加者数:330 名

役員、住民、消防団、

救護班が参加した。

#### Step5 呼びかけ体制の検証

### 訓練の振り返り

実施時間:90 分 参加者数:4 名 町内会長が参加し

講演、炊き ※訓練終了後に実施

### 2) 体制づくりで明らかとなった課題と解決策

#### 課題①:会長不在時の対応

町内会長不在時の対応方法を検討していなかった。

#### 課題②:連絡方法の危険性

避難の呼びかけ方法に「戸別訪問」があるが、警戒レベル4(避難指示)では伝達者にも危険が伴うのではないか。

#### 解決方法:別の町内会長による代行

町内会長同士が連携し、不在の町内会長がいた場合は別の町内会長が当該町内会の幹事に連絡する。

#### 解決方法:連絡方法の見直し

警戒レベル4(避難指示)の段階では戸別訪問による呼びかけは実施しない方向で検討する。

### 3) モデル組織独自の取組

#### ●避難行動要支援者への呼びかけ

要支援者に対し、避難を呼びかける仕組みを整えている。 呼びかけの方法としては幹事が直接、要支援者の家族や 本人へ連絡する。

#### ●他団体との連携

町内に在住する現役・退職した看護師の任意団体(救護班)と連携し、避難所での怪我人の処置等を連携する体制ができている。

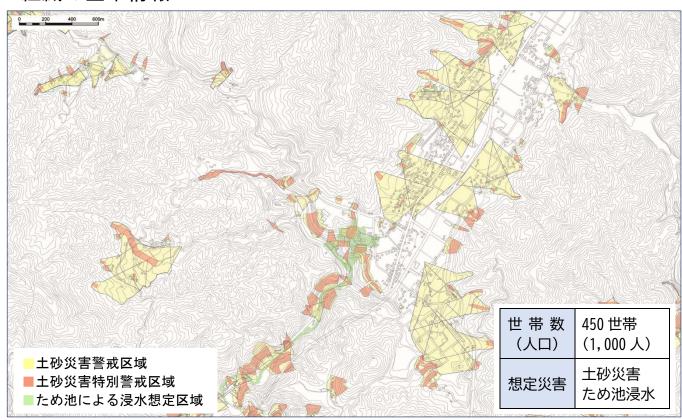
### ●町内会未加入世帯への呼びかけ

町内会に入っていない世帯に対しても戸別訪問で呼びかけを行っている。



## 連合【安芸高田市】上根・向山地域振興会

### ◆組織の基本情報



## ◆避難の呼びかけ体制(抜粋)

避難	情報の入手方法	市からの音声告知放送/広島県防災メール/テレビ/インターネット							
	順番	会長・副会長⇒自主防災部長・副部長⇒各行政区自主防災部員⇒住民							
	担当者不在時の対応	副担当が代行							
	タイミング	警戒レベル 3	警戒レベル 4						
nsi)	範囲	全世帯							
呼びかけ	優先度	道路が寸断される恐れのある地域住民/要配慮者							
け	方法	電話 / 戸別訪問							
	内容	一緒に避難しましょう。	みんな避難しています。急いで避 難場所に避難してください。						
	完了確認	各行政区自主防災部員⇒自主防災部長・副部長⇒会長・副会長 (呼びかけの順番とは逆順に報告)							
他団	体との連携	民生委員/消防団							

### ◆呼びかけ体制づくりに向けた取組



- ●定期的な活動はこれまで行っていなかったものの、昔ながらの集落であり、地域の 結束力は強い。
- ●地域の大半が土砂災害警戒区域等である上、指定避難所までの距離が遠い。

### 1) 実施した取組

#### Step1 防災意識の醸成

### 講演会

実施時間:70分 参加者数:11名 役員が参加した。

### Step2 地域性の把握

#### 災害図上訓練

実施時間:120分 参加者数:41名 役員、民生委員、 消防団が参加し た。

※呼びかけ体制に ついても検討

#### Step3 呼びかけ体制づくり

#### 役員会など

役員が作成した 体制のたたき台 を基に議論した。

### Step4 呼びかけ体制の実践

#### 避難訓練

実施時間:60分 参加者数:64名 役員、住民が参加 した(2行政区)。

#### Step5 呼びかけ体制の検証

### 訓練の振り返り

実施時間:30分 参加者数:22名 役員、呼びかけ担 当者、住民が参加

※避難訓練終了後 に実施

### 2) 体制づくりで明らかとなった課題と解決策

#### 課題①:避難所までの距離

地域の大半が土砂災害警戒区域等 である上、指定避難所までの距離 が遠い。

#### 課題②:組織の規模

13もの行政区で構成されている ため、一度に振興会全体での体制 づくりを進めることが難しい。

#### 解決方法:早めの呼びかけ徹底・民間施設の利用

土砂災害警戒区域等からの早期避難を促すため、警戒レベル3での避難の呼びかけを徹底した。

また、近隣の民間施設に避難場所として利用できるよう施 設管理者に働きかけている。

#### 解決方法:モデル行政区による体制づくり

まずは、体制づくりが可能な2行政区で取組を行い、役員 会などで周知し、振興会全体に波及させていく。

### 3) モデル組織独自の取組

#### ●名簿の作成

高齢者が多く居住する地域であることから、日中・夜間における支援の要否や、緊急時の連絡先、家族構成などを記載する独自の名簿を作成した。

※名簿は 52 ページに掲載

	(行政区 班) 班員名簿及び連絡体制								No.						年齢は0年0月0日返				
班	世帯主名	年齢	お太助フォン又は	緊急連絡先 携帯番号等	家族名	年齢	家族名	年齢	家族名	年齢	家族名	年齢	家族名	年齢	避難	方法	要援護	緊急連絡先	緊急連
No.	世帝主名	平部	電話番号	携帯番号等	水灰石	平割	水灰石	平割	水灰石	平部	<b>水灰石</b>	平器	<b>水灰石</b>	平部	昼間	夜間	有·無	氏名	電話者
1															自·要	自·要	有·無		
2															自·要	自·要	有·無		
3															自·要	自・要	有·無		
4															自·要	自・要	有·無		
5															自·要	自·要	有·無		